

松井田高等学校 「学校評価結果」 ※達成度については「学校の自己評価の結果」です。

羅 針 盤			達 成 度			学 校 関 係 者 評 価 ( 結 果 )	今 後 の 改 善 方 策 (改善の方向)
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目	①	②	総合		
I 特色ある学校 づくりに努めていますか。	1 生徒の実態を踏まえた教育目標・教育課程を設定していますか。	①少人数・コース制等の目標を理解して学校生活を送っている生徒が80%以上である。	B	A	A	○この項目は本校の教育目標を実現するための具体的な内容であるので、前面に押し出して実現する必要がある。  ○地域のボランティア活動に参加する者が固定化されつつある。地域のボランティアの会とも連携し、生徒が参加しやすい環境を作ることが大切である。  ○ボランティアを報告する「MVCニュース」は、張り合いのあるメッセージである。続けて発行して欲しい。	○2年次からのコースの違いは、取得できる資格の相違だけでなく、大学への進学の可能性も考えて選ぶようカリキュラムの違いを明確に説明しながら指導する。  ○ボランティアの内容については、生徒会ともタイアップし、生徒の意見も参考にしたものも取り入れる。  ○インターンシップについて、その意義を生徒のみならず保護者にも理解してもらえよう、進路通信や保護者会等を利用して説明する。  ○ボランティアに参加する生徒が固定化されつつあるので、生徒会の協力と地元ボランティアのアドバイス等を生かして多くの生徒の参加を目指す。  ○「MVCニュース」の配布先を検討する。
	2 特色ある教育活動(授業等)を行っていますか。	②「ハートフル松高(地域学習・カウンセリング等)」に満足している生徒が80%以上である。	A	A	A		
	3 地域社会との連携を積極的にを行っていますか。	③地域の各種行事等に参加している生徒が60%以上いる。 ④奉仕活動、インターンシップ、ボランティア活動に参加している生徒が70%以上いる。	B	A	A		
	4 生徒の主体的な学びを引き出す「総合的な学習時間」を行っていますか。	⑤キャリア学習、地域学習、環境学習に主体的に取り組んだと評価している生徒が70%以上である。	A	A	A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	5 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑥基礎・基本の定着を目標とした本校での学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上である。	A	A	A	○本校生徒は色々な面で個人差が大きいが、様々なマイナス要因を持っている者も力を伸ばしている。自己実現を図るための学習であることを理解させると学習への意欲も湧くので、進路学習と関連させ、学習意欲やチャレンジ精神を喚起する必要がある。	○学習意欲を喚起するための方法として、進路意識の向上が考えられる。そのため、進路通信や学年通信の効果的な記述法、また、資格試験の内容とその学習方法についての有効な指導法を教科毎に検討する。
	6 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦学習習慣を定着させるため、1日当たり1時間以上の家庭学習に取り組ませている。  ⑧資格試験に積極的にチャレンジした生徒が80%以上である。  ⑨1時間毎の授業を大切にするため始業チャイムスタートを心掛けチャイムと同時に席に着いている生徒が90%以上である。	B	B	B		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑩職員会議や学年会議等で生徒に関する情報交換を月に2回以上行っている。	B	A	A	○生徒の内面と良く向き合った丁寧な指導が行われている。  ○若い保護者には難しいこともあるが、改善策の中に「規則正しい家庭生活」の文言も入れて、家庭教育についての協力をお願いする。	○特定の生徒が、遅刻や頭髪・服装の乱れが改善されず繰り返すとの指摘がある。指導の強化週間等も設けているが、根本的な解決にはもう一歩である。生徒指導部、生徒会、保健委員会、進路部、スクールカウンセラーが連携し、生徒の内面に訴えられるような指導を推し進める。
	8 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪担任が中心となり基本的生活習慣の確立を学ばせ、遅刻の根絶を目標にする。なお、遅刻回数による担任・生徒指導主事等の段階的指導を行う。 ⑫生徒保健委員会活動を充実させ健康問題に対する「お知らせ」を毎月発行する。	B	B	B		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	⑬学年にあった進路計画のもと、将来についてのプランニングができる生徒が80%以上である。	A	A	A	○普段の地道な学習が、自己実現(進路実現)につながることを意識させながら授業を実践して欲しい。	○1年次から3年間を見通した進路学習の内容を理解させ、進路選択と進路実現のための方法を学習させる。また、進路選択のための有効な方策であるインターンシップについては、受け入れ先の開拓と生徒の興味関心を喚起するための方法を検討する。
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑭「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる活動を実施し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が70%以上である。	A	A	A		
	11 適切な進路情報を提供していますか。	⑮進路情報を定期的に発行している。(発行は各学期2回以上を目標にしている)	A	A	A		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑯教育活動を理解してもらうためPTA総会や保護者会等で「学校公開」を年2回以上実施している。 ⑰PTA総会や学年保護者会等に積極的に参加している保護者が80%以上である。 ⑱各学年、通信を月1回発行したり、定期的にホームページを更新する。	A	A	A	○PTA総会の参加率はどの学校でも低い傾向にある。参加率を上げるため、授業参観、総会、学級懇談会の順で設定すると効果がある。いずれにしても、PTA活動の活発化は大切である。	○学校からの情報が、生徒や保護者にとって有用なものであることを理解してもらえば、学校からの通信や保護者会などへの理解が深まる。生徒、保護者に学校からの情報を浸透させるための方法(通信の体裁・内容、保護者会の日程、内容など)を常に見直すようにする。  ○講演会や郷土芸能鑑賞会を実施するに当たっては、事前学習を十分に実施する。
	13 ホームページをこまめに更新して、広く広報する。						
	14 地域社会の教育力を活用していますか。	⑲地元の方を講師として迎えて講演会等を年2回以上行う。	A	A	A		

